



知夫小中学校
Tel 08514-8-2015
Fax " 8-2312
〒684-0100
知夫村 1053-1
[HP] <https://www.chibumura.ed.jp/>

知夫版 逃走中

二月一日、生徒会執行部がイベントを行いました。イベント名は「知夫版 逃走中」。準備期間が限られる中、小中学生全員が楽しめるイベントを懸命に準備しました。今回はその時考えていたことや思っていたことを生徒会長にインタビューしましたので、紹介します。



Q. イベントを仕掛けた理由は？
A. 生徒会のスローガンは、「活気あふれる知夫小中学校にする」です。それを実現するために、小中学生が一緒に盛り上がる必要があると考えました。それから、生徒会として中学生として、「もっと行動したい。」と欲していたので、イベントを行いました。

Q. どうして、逃走中？
A. テレビでやっているのを見て、そもそも面白そうだったし、小学生も楽しくやれるのではないかと考えました。学校の敷地や範囲の広さを考えると、それを利用すると面白くなるだろうと思いました。

Q. 計画は順調に進んだ？
A. 思っていた以上に決めることが多く、予想外のこともあって本当に大変でした。一つのこと解決したかと思うと、次々に課題が出てきました。特に大変だったのは、イベントの流れがどのようになるかスムーズにできるのか順番を考えることでした。決められた時間の中で、楽しむ内容にするためにどのような順序でミッションを提供するかなど、考えるのが複雑でした。準備の際に楽しいことはなかったですね。

Q. 本番はどうだった？
A. どうなるか心配でしたが、皆が楽しんでくれていて本当に良かったです。企画の段階から、「逃走中だっけ？」と聞いてきてくれたり、終わって嬉しかったり。スローガンに向けても、班ごとにチームワークを見ることができ、小中学生と一緒に一つのことに取り組みたのが良かったです。

Q. 今回のイベントで得たものは？
A. 最後まで考え抜く力、周りを見る力、期間内に計画を完成させる力です。僕は、部活動にも力を入れていきます。今回の準備では、部活ができないことも多かったのですが、計画を立て始める際は早い時期がいいということも分かりました。



【学校教育目標】

未来を切り拓く
心豊かでたくましい
知夫の子どもを
育成する

【めざす子ども像】

- ・自ら学ぶ子ども
- ・共に生きる子ども
- ・たくましく
生きる子ども
- ・ふるさとを
愛する子ども

立派な中学生に

二月五日、小学部六年生児童を対象に中学部体験入学を実施しました。子どもたちは学校生活についての説明をしっかりと聞き、数学の体験授業や部活動体験に積極的に参加しました。体験を通して楽しさや難しさを感じたようですが、一人一人が今の自分を振り返り、立派な中学生になるための目標や心構えを新たにしていきました。



卒業まであと一ヶ月です。下級生に信頼される六年生として、立派に卒業式を迎えてほしいと思います。そして、四月には大きな夢と希望を持って中学部に入学してくれることを期待しています。

【児童の感想から】

体験入学では、中学部の高橋先生に「君たちには黄金世代になってもらいたい。」という話をされました。ぼくはすごくやる気になりました。永井先生はぼくたちに、「まだ甘い。」ということを言っていました。ぼくは、確かに中学生よりあいさつができていません。だから永井先生に言われたことは、なっとくしました。これからは、あいさつ、返事、マナー、宿題をきっちりしたいと思えます。

数学の授業体験では、中学校のやり方で勉強しました。一時間でやるようなのちがいが大きかったです。いつもは三問もしないし、その上にプリントもやるようなこともないのでびっくりしました。中学に入るまでにつと勉強をしておいつけ



立派にできたよ

小学部一日入学

二月十九日、来年度の小学部新一年生を迎えて、一日入学を行いました。小学部一・二年生が企画・運営の中心となり、約一ヶ月前から準備をしてきました。新入生が喜んでくれるように会の内容を考えたり、プレゼントを作ったりしました。自分の係のセリフを考え、覚えることもとても上手で順調に準備が進んでいきました。当日は、手を繋いで移動したり、優しい口調で話しかけたりする姿が見られ、上学年としての成長を感じました。新入生、一・二年生、共に素敵な笑顔が見られ、大成功の一日入学となりました。

【児童の感想から】

わたしは、せりふをおぼえてはつきりいうことができました。ゆりさんとたくむくんにやさしくおしえることもできました。一・二年生みんなが、たくむくんとゆりさんにやさしくおしえていたのでよかったです。わたしが「手をつなぎましょう。」といたら、ゆいさんがすぐにつないでいて、いいと思いました。



小学部一年

ぼくは、はつきり大きなこえでいうことをがんばりました。たくむくんは、どうぶつあるきで手がつめたかったけど、がんばってうさぎとびまできたのですごくいいおもいました。ゆりさんは、はしるのがはやくなっていました。ゆいさんは、ゆうをがんばったとおもいました。ゆいさんは、はつきり大きなこえでいうことをがんばっていました。



学力向上へ向けて

小学部 中学部の取り組み

学力向上に向けて、小学部は二学期に引き続き「学力パワーアップ週間」を設定し(二月五日～二月十五日)の二週間の間、十六時二十分から十六時四十五分の二十五分間)プリント学習に取り組みました。二学期同様に三・四年生に四人、五・六年に四人の指導者が入り、質問のある児童への対応と、プリントの丸つけに関わりました。

二学期に経験している分、普段使用しているドリルと違う出題にも戸惑いが少なかったように思います。また、一人ひとりのペースに合わせて学習を進めているため、進度が違っていたとしても、一つひとつの問題について分らないまま終わらず、「できた。」「解けた。」という手ごたえを感じることで、学習時間がなくなったのではないかと感じています。

パワーアップ週間が終わっても、こうした放課後の時間を一人ひとりの力をつける時間として考え、担任だけでなく、複数の教員で児童の学力向上を図っていく予定です。

【小学部担当】

中学部では、学力の定着を目指し、毎日のトライタイムで五教科の学習を週ごとに行っています。週の終わりにはテストを実施し、学習の成果の確認ができるようになっています。

定期テスト一週間前の放課後には学力パワーアップの時間を設け、放課後五時半までの学習会を実施しています。

また、家庭学習の習慣化を目指し、学年ごとに家庭学習の目標時間を設定して自学ノートを活用した学習を進めています。その中で、友だちの自学ノートを参考にしながら、自分で考えて家庭学習に取り組む子どもの姿が多く見られるようになってきました。今後も、子どもたちが自ら学習に向かえるような取り組みを行いながら、学力の向上を目指していきたいと考えています。

【中学部担当】



努力が結果に 校内マラソン大会

二月十三日に今年度最後の校内マラソン大会が行われました。大会へ向けて、小学部は毎日の朝マラソンやランタイムに、中学部は放課後の体力づくりに取り組み、それぞれ、その成果が見られた。小学部・中学部共に、その大会になったと思わず。今後一人ひとりが自分の限界に挑戦し、心身にさらなる成長を遂げるよう心掛け、携わっていきます。保護者、地域の皆様には今大会でもたくさん温かいご声援をいただき、ありがとうございました。あ



〔児童・生徒の感想から〕
わたしのマラソン大会のめあては「一〜四位までに入る。」でした。今回は四位だったから、めあてはクリアできました。でも、大会までがんばることは「毎朝校庭を五周以上走る。」があまりできていなかったから、次は毎朝何周でもいいから走りたいです。そして、女子一位にかがやけるようがんばりたいです。

小学部三年

私はマラソン大会で、初めて一位になることができました。私はマラソン大会をする前に、目標がありました。それは、「一分遅れでスタートする男子に、ぬかれないように走りきる。」とかなえられたのでよかったです。でも、タイムでは今回の大会を休んでいた友達をぬくことができませんでした。次は、その友達に勝てるようにがんばりたいです。

中学部一年



ふるさと教育（総合的な学習の時間）

～中学部3年生学習成果発表会及び村長との懇談会～

今年度、知夫小中学校は「ふるさと教育」の9年間の内容について見直しをしました。小学部1・2年生を「入門期」、3・4年生を「前期」、小学部5年生から中学部1年生までを「中期」、中学部2・3年生を「後期」と位置づけ、それぞれの時期に子どもがどのように知夫村の人・地域と交流し、地域の取り組みに参加するのか。そして、そこでどのような力をつけるのかを検討しました。今回、紹介する中学部3年生は「後期」の位置づけです。後期のふるさと教育のテーマは、「地域の大人と協働し、知夫のために行動する」であり、めざす児童・生徒像を「知夫の未来を描き、提案、行動する子」としました。

島根県が、総合的な学習の時間などに「ふるさと教育」を取り入れて以来、知夫小中学校の児童・生徒は地域の課題を取り上げ、その解決に向けた方法を校内における発表会で発信してきました。この取り組みは、多くの保護者や地域の皆様から応援・評価をいただき、続けてきたわけですが…。「知夫の子ども達が、頭で考えたことを発信するだけの取り組みで、9年間のふるさと教育を終わってしまってもいいのか…」そのようなことを考えてみました。

島根県が、総合的な学習の時間などに「ふるさと教育」を取り入れて以来、知夫小中学校の児童・生徒は地域の課題を取り上げ、その解決に向けた方法を校内における発表会で発信してきました。この取り組みは、多くの保護者や地域の皆様から応援・評価をいただき、続けてきたわけですが…。「知夫の子ども達が、頭で考えたことを発信するだけの取り組みで、9年間のふるさと教育を終わってしまってもいいのか…」そのようなことを考えてみました。

そう考えた時に、「知夫の子ども達が、頭で考えたことを言葉で伝え、体を動かしながら形にしていく。」そのようなことができれば、ふるさと教育の完結としてふさわしいものになるのではないかと結論に至り、知夫小中学校の最終学年が取り組むふるさと教育の活動内容を考えていきました。

それでは、具体的にどのような学習を仕組み、活動を行っていくのか。

まず、次の3つの条件を整えることにしました。

- 条件① 子どもが「やりたい、面白そう」と思えるPJ（活動）をつくること
 - 条件② PJをチーム（複数メンバー）で取り組ませること
 - 条件③ 「やってみたい、面白そう」という想いを持った知夫の大人に協力していただくこと
- そして、設けたPJは次の三つで、協力してくださる知夫の大人（伴走者）を決めました。
- PJ① 人生Book（村民福祉課 保健師）
 - PJ② のだいこん祭り（地域振興課職員）
 - PJ③ 知夫里島定食（栄養教諭）

活動は、2学期スタートからすぐに始めました。

人生Book PJ → 地域のお年寄りの人生を写真や文字でまとめた本を作るPJ。人選は保健師にいただき、生徒はお年寄りの話を聞き取る作業から始めました。お年寄りが活躍していた時代背景が見えないため、聞いた話が分からなかったり、どんな話を掲載し、どのような構成の本にしていくのか悩んだりしながら活動しました。

のだいこん祭PJ → 平成が終わり、新しい時代を迎える今年の【のだいこん祭り】ということで、「新時代の幕開け、今までにない“のだいこん祭り”を」をコンセプトに計画を進めました。予算を気にしながら、アイデアを出してもそれが含むデメリットまで考慮されているのかなど、生徒の提案・考えが通るまでにはいくつもの困難がありました。

知夫里島定食 PJ → 「知夫の食材を使った定食を、ホテルのメニューとして採用してもらおう」ということをめざして活動しました。知夫の食材が何で、いつ・どのような場所で採れるのかということなど生徒が知らないことも多く、1回目のホテルへのお願いは通りませんでした。しかし、手に入りやすい食材を考えたり、盛りつけを工夫したりするなどして、2回目はホテルから「採用」のお言葉をいただきました。

発表会当日（2019年1月28日）は、会場を役場にして地域の皆さんに学習の成果を発表しました。会には、人生Bookの対象者となった3名の方にもお越しいただき、贈呈式を行いました。生徒から対象者への言葉と、それに対する対象者からの言葉に、会場では涙を流される方もいました。

発表後は、村長・副村長・教育長・役場各課長と生徒による懇談会を行いました。「人生Bookは、いいものを作ったね。」「ホテルの支配人の首を、よく縦に振らせたね。」「形のないものをつくる時（イベントを計画する際）は、そのことばかり考えておかないといいものは簡単にできない。」など、生徒が活動を振り返る上で有り難いお言葉をたくさんいただきました。

発表会後、生徒は5か月間の活動を振り返りました。多くの生徒が、「日々の学習で力をつけておかないと、実践する際に困る。」というような感想を書いていました。今後の進路先での学習や、生き方につなげてもらいたいです。

今後は、この実践的な取り組みが安定的に実施されることが課題となっています。地域の方々の声を拾いながら、めざす児童・生徒像である「知夫の未来を描き、提案、行動する子」を育てていくことができるよう、次年度の準備をして参ります。

